

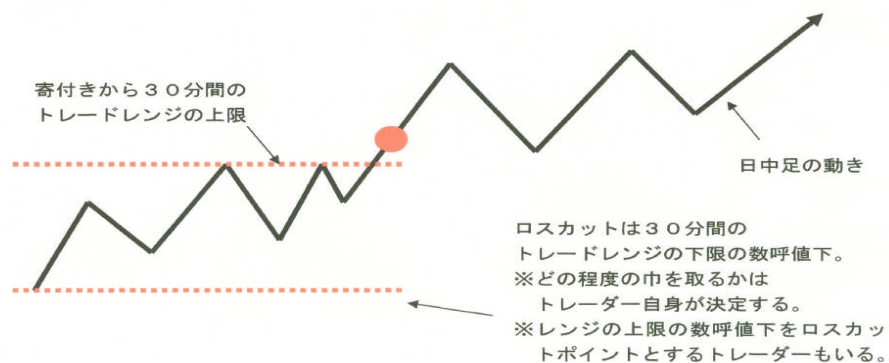
デイトレード手法の基本

1. ブレイクアウト系手法

① 30分レンジのブレイクアウト（1日の中で活発な取引と値動きの激しい時間帯）

- ルール
- a 寄り付きから30分間はトレードしない
 - b 寄り付きから30分間のトレードレンジ（株価の推移した上下の幅）の上限をブレイクアウトした時にエントリーする。出来高を伴ったブレイクアウトは信頼度が高い。1呼値を抜いて、2呼値を抜いて、あるいは5分足の終値でエントリーかは自分で判断。
レンジ幅が大きい時は見送りもある。

日中足



- c ロスカットは30分間のレンジの下限または数呼値下。

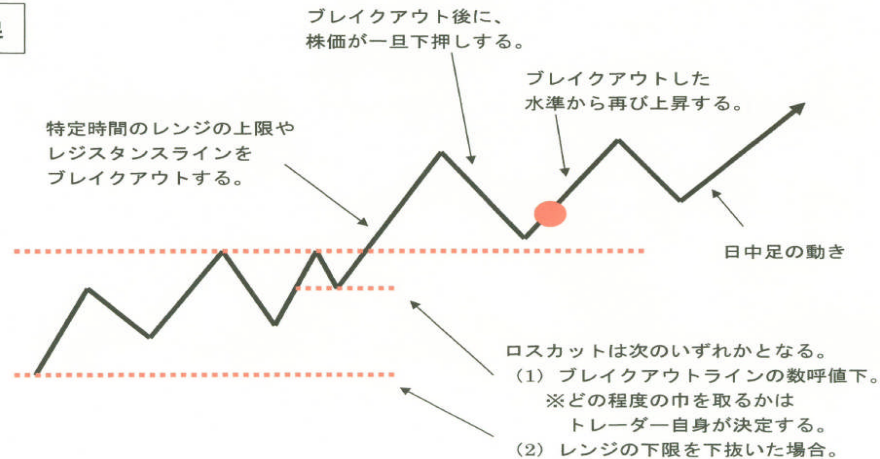
② 1時間レンジのブレイクアウト（定番）レンジ幅が大きい時は見送りあり。

- ルール
- a 寄り付きから1時間はトレードしない
 - b 寄り付きから1時間のトレードレンジ（株価の推移した上下の幅）の上限をブレイクアウトした時にエントリーする。出来高を伴ったブレイクアウトは信頼度が高い。
 - c ロスカットは1時間のレンジの下限又は数呼値下。

③ バウンスバック（慎重なトレーダー向き。真正なブレイクアウトならバウンスバック後に株価は必ず上昇を始める）

- ルール
- a 株価が特定の時間の上限やレジスタンスライン（前日高値、数日間の高値等）をブレイクアウトする。
 - b ブレイクアウト後に株価は一旦下押しする
 - c ブレイクアウトしたラインから再び上昇始めるタイミングでエントリーする。
 - d ロスカットはブレイクアウトラインの数呼値下、又はレンジを下限近辺

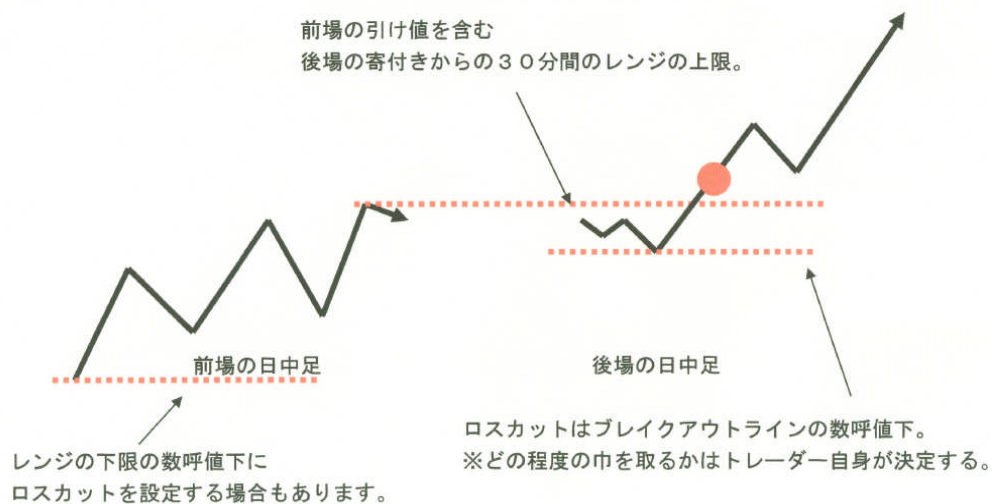
日中足



④ 後場寄付きのブレイクアウト

- ルール a 前場の引け値を含む後場の寄り付きから30分間のレンジに注目する。
*トレーダーによっては前場引け値を含む後場5分又は15分間のレンジの上限をブレイクアウトした場合にエントリーする者もいる。
また、前場のレンジの上限をブレイクアウトした場合にエントリーする手法もある。
- b aの上限をブレイクアウトした場合にエントリーする。
- c ロスカットは上限の数呼値下。

日中足

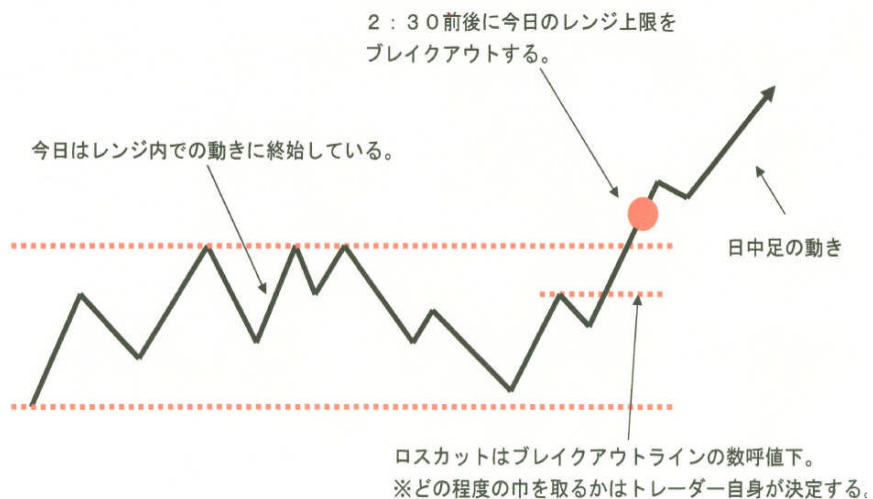


⑤ 2時30分のブレイクアウト

背景：「2時30分から大引け」にかけてその日のレンジ幅を情報にブレイクするのなら、その日の含み損を抱えているデイトレーダー達は損切りをせざるを得なくなり、いわゆる「投げ」が出てくる。投げによる株価の上昇に乗る手法です。

- ルール a 2時30分前後まで株価はレンジ内で推移している。
- b 2時30分から2時45分の時間帯に今日のレンジを上方にブレイクアウトした場合にエントリーする。出来高が急増していれば信頼度は高い。
- c ロスカットは今日のレンジの上限の数呼値下。

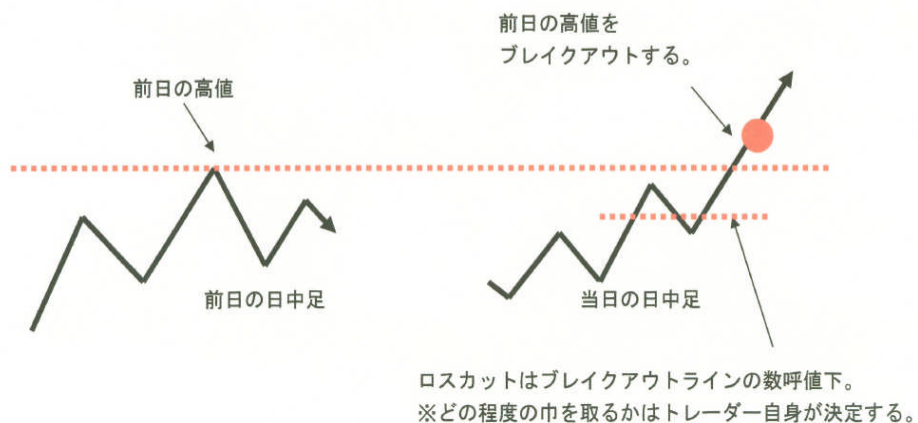
日中足



⑥ 前日高値のブレイクアウト

- ルール a 今日株価は前日高値以下で寄り付く。
- b 株価が上昇し、前日高値をブレイクアウトしたときにエントリーする。
- c ロスカットはブレイクアウトラインの数呼値下。

日中足



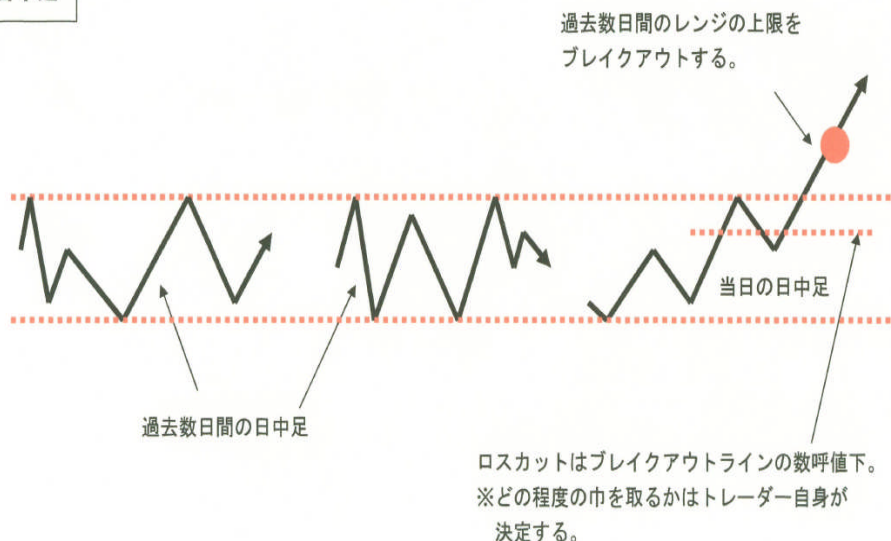
⑦ 過去2～3日レンジのブレイクアウト

- ルール a 株価が2数日間に亘り保ち合いが続きレンジが形成される。

b 今日株価が上昇し、保ち合い期間に形成されたレンジの上限を上方にブレイクアウトした場合にエントリーする。

c ロスカットはブレイクアウトラインの数呼値下。

日中足



⑧ 30分足ブレイクアウト

バースタインの手法。日本の市場は取引時間が短いので、15分足や20分足チャートでルールを適用しても良い

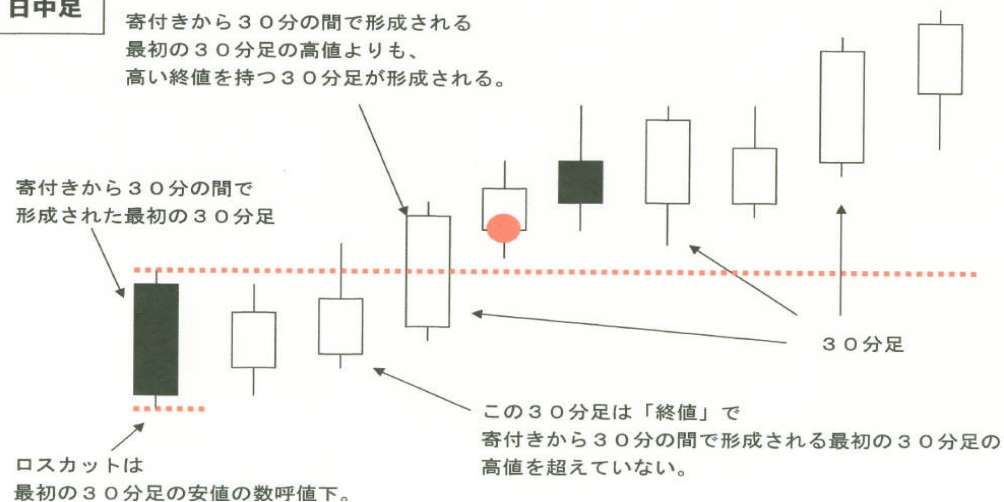
ルール a 寄りきから30分はトレードしない

b その日の寄りきから形成される最初の30分足の高値よりも、**高い終値**をもつ30分足が形成されるのを待つ。

c 最初の30分足よりも高い終値をもつ30分足が形成されたら、次の30分足の始値でエントリーする。

d ロスカットは最初の30分足の安値の数呼値下。

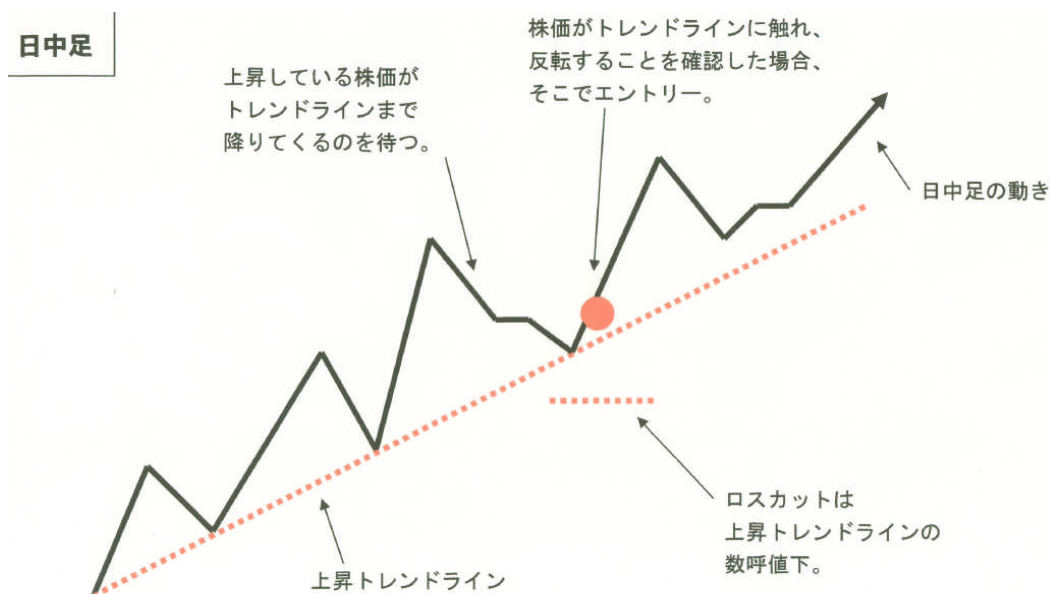
日中足



2. トレンド系手法

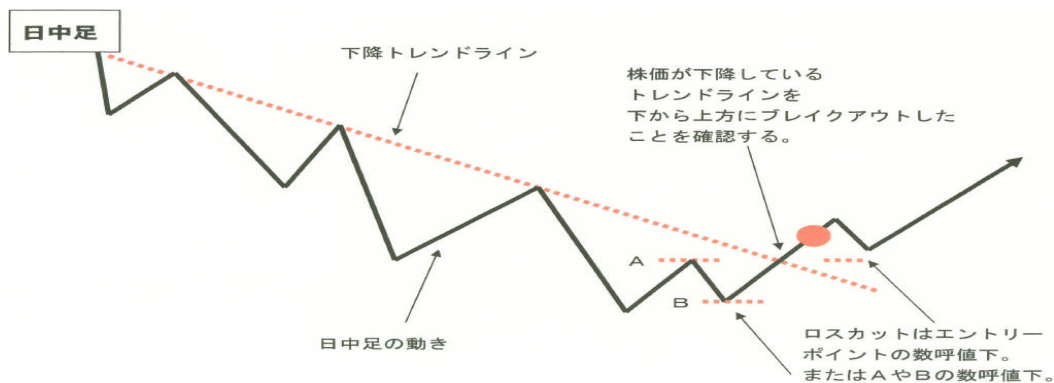
① トレンドラインの押し目買い

- ルール
- a 日中足で上昇トレンドを確認する。
 - b トレンドラインを描く。
 - c 上昇している株価がトレンドラインまで降りてきて、トレンドラインに触れ、反転することを確認してエントリーする。
 - d ロスカットはトレンドラインの数呼値下。



② トレンドラインのブレイクアウト

- ルール
- a 日中足で下降トレンドを確認する。
 - b トレンドラインを描く
 - c 株価が下降トレンドラインを下から上にブレイクアウトした場合にエントリーする。
 - d **ロスカットはエントリーポイントの数呼値下。**

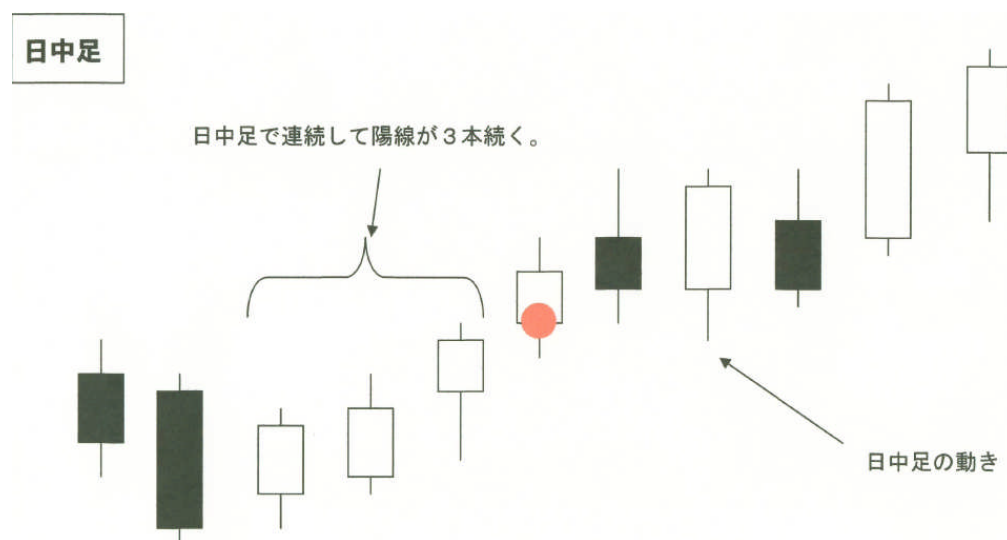


③ 3 COR (close/open relationships)

背景：陽線とはその時間単位において買いの勢が強かったことを示す。そして勢い

とは一旦方向をもって動き出すとその方向への動きが持続され、それがトレンドを生み出す傾向にある。この手法はトレンドが形成される初期、勢いが生み出される初期にその動きに飛び乗ることになる。酒田野線法の赤3兵に類似。

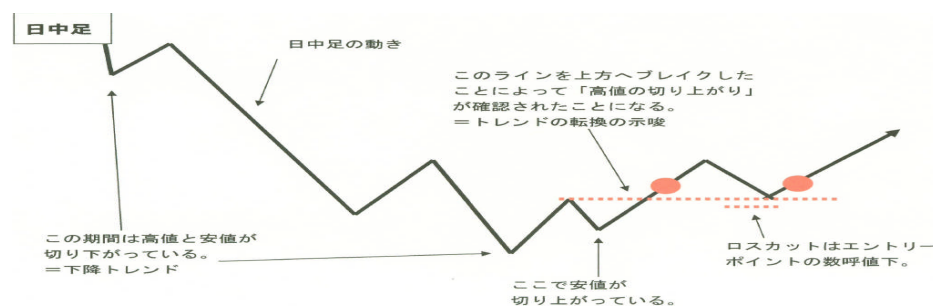
- ルール
- a 日中足で連続して陽線足が3本続く。
 - b 次の足の初めでエントリーする。
 - c ロスカットは金額ベースで設定。許容損失額を2%に設定するなら、含み損が2%以内に収まる株価で設定



④トレンド転換

背景：下降トレンドの定義は「高値と安値の切り下がり」です。これはトレーダーにとっては基本で、しかも極めて重要な相場の認識事項です。もし下降している株価が高値と安値を切り上げる動きをするならば、それはトレンドが転換する可能性を示唆していることになる。この動きをとらえてエントリーするのがこの手法。

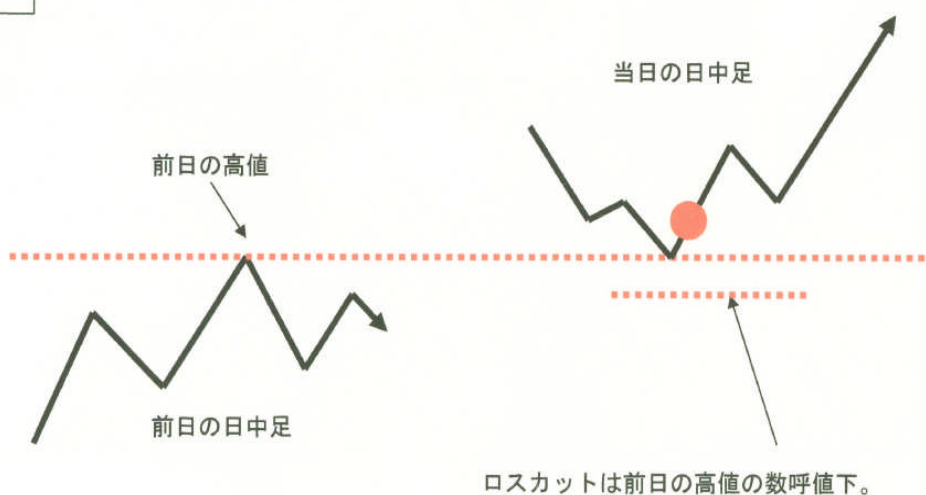
- ルール
- a 下降トレンドを認識する。
 - b 株価の動きにより形成された日中足に高値と安値の切り上がりを確認した時点でエントリーする。又は上記を確認したあとのバウスバンドを確認した時点でエントリーする。
 - c ロスカットはエントリーポイントの数呼値下。



⑤前日高値での反転上昇（トニー・オズの手法）

- ルール
- a 日足で上昇トレンドを確認する。
 - b 今日の寄り付きはギャップアップして始まる。
 - c 株価が寄り付きから下落し前日高値水準まで下げる。
 - d 株価の反転を確認してエントリーする。
 - e ロスカットは前日高値の数呼値下。

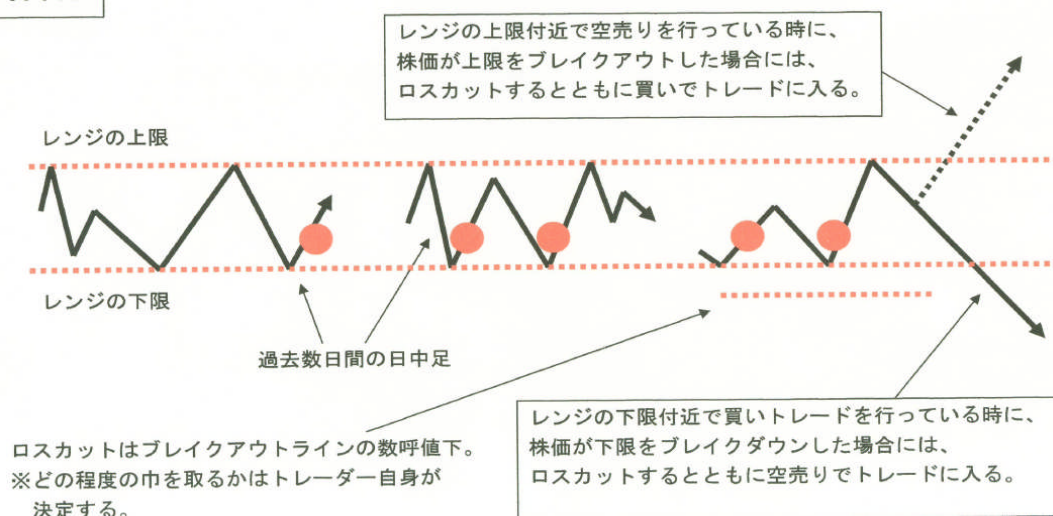
日中足



⑥レンジ内トレード

- ルール
- a 日足チャートや日中足チャートで、一定のレンジ内で推移する銘柄を探す。
 - b レンジの下限に触れたタイミングまたはレンジの下限からの反転を確認してエントリーする。
 - c ロスカットはレンジの下限のサポートラインの下。

日中足



3. テクニカル系手法

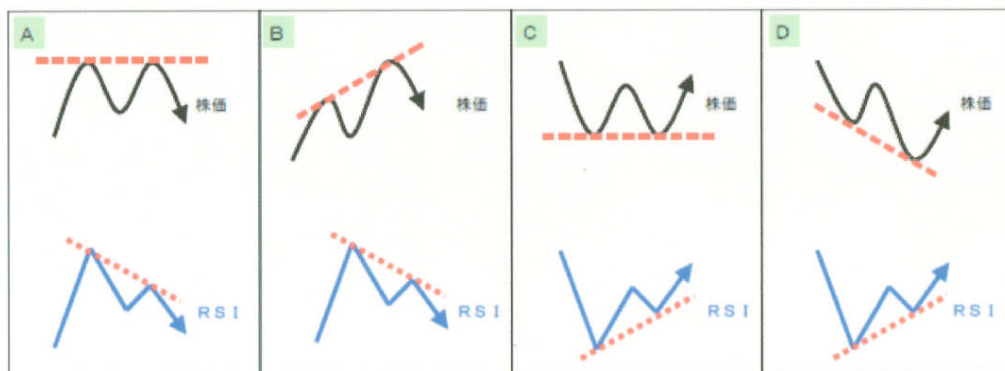
①RSI (パラメーターは9ないし14を使用)

- ルール a RSIの数値が25以下に下がる
 b その後RSIの数値が25を上回るまで上がってきたことを確認してエントリーする。
 c ロスカットはエントリー前の安値の数呼値下。ダマシも多いのでロスカットは厳守。

②RSIのダイバージェンシー

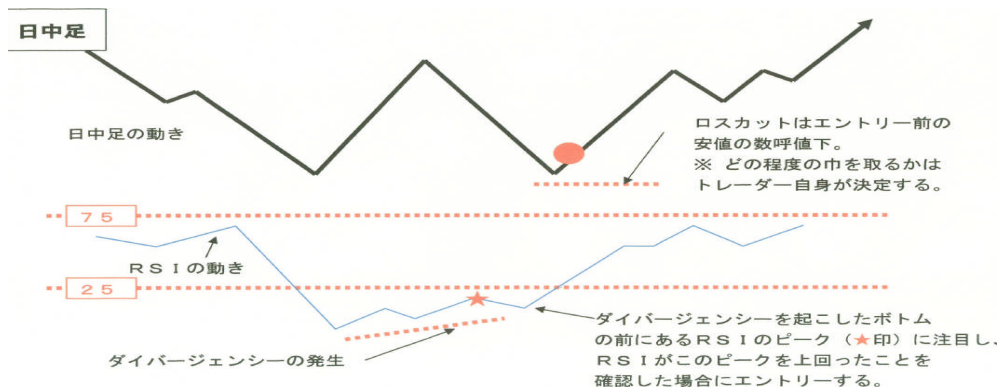
ダイバージェンシー：株価とテクニカル指標との関係において、株価は上昇しているのにテクニカル指標が下降している、あるいは株価は下降しているのにテクニカル指が上昇している状態を「ダイバージェンシー（逆行現象）」という。

下図ではA図よりもB図が、C図よりもD図のほうがそれぞれ「より強いサイン」となります。



- ルール a ダイバージェンシー（株価の下降とRSIの上昇）を確認する。（この時RSIの数値が25%～30%以下でダイバージェンシーが発生していることが望ましい）
 b ダイバージェンシーを起こしたボトムの前にあるRSIのピークに注目
 c RSIがこのピークを上回った場合にエントリーする。
 d ロスカットはエントリー前の安値の数呼値下。

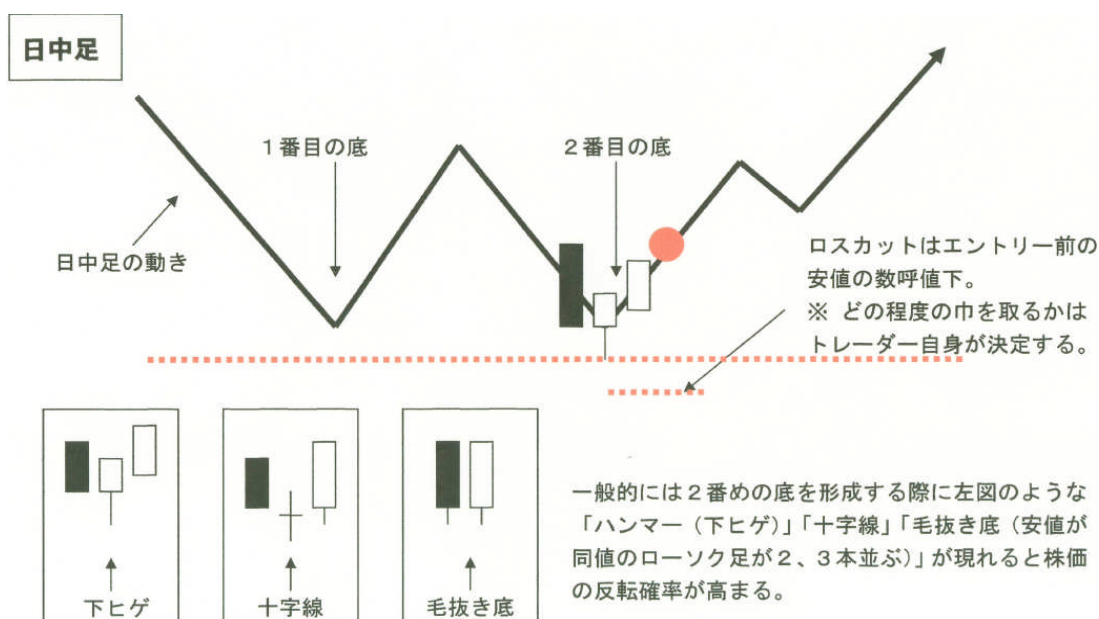
*RSIは9または14で設定するのが一般的。またRSIの数値は使用する分足の終値で確認す



4. チャートパターン系手法

①Wボトム

- ルール a Wボトムが形成されるのを確認する。
- b 株価が直前の安値を下抜けずに反転上昇したことを確認してエントリーする。又はネックラインを上抜いたことを確認してエントリーする。2番底を形成する場合、下ヒゲ、十字線、毛抜き底などのローソク足が示現すると確立が高い。
- c ロスカットはWボトムのサポートラインの下。



5. ギャップ系手法

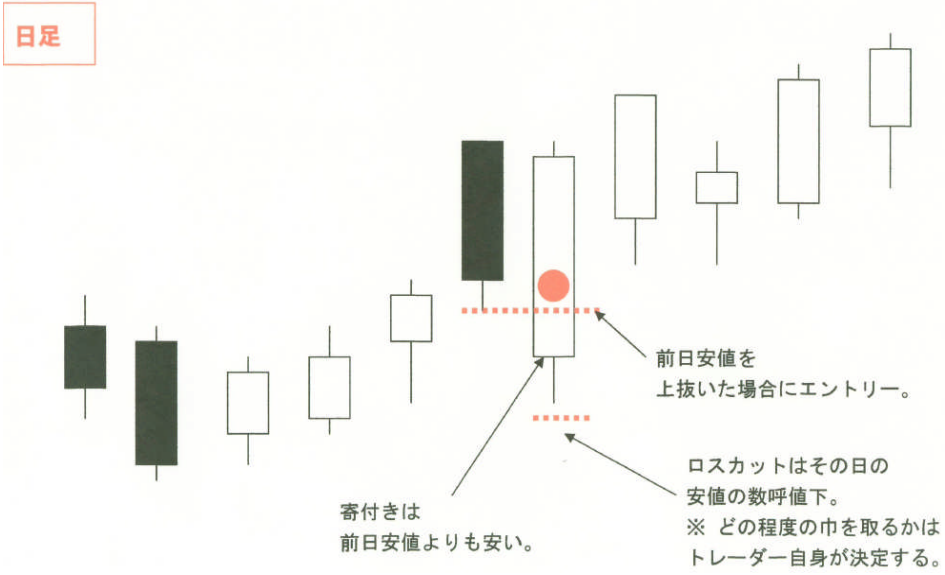
①ウップス

ラリーウィリアムズが考案した寄り付きのギャップを利用した手法。

寄り付きでギャップダウン（前日の安値より安く寄り付く）が発生した場合、多くのトレーダーがパニックになり株を投げ売りする。しかしその後株価が上昇を始め、前日の安値を抜いてくると、投げ売りしたトレーダーが株を買い戻してくるので、株価はさらに上昇を始める場合がある。この上昇に飛び乗る手法をウップスという。ウップスの日本語は「おととつと！」という意味。

- ルール a 今日の寄り付きが前日の安値より安いことを確認する。（ギャップの発生）
- b 株価が上昇し、前日の安値を上抜いた場合にエントリーする。
- c ロスカットは今日の安値の数呼値下。

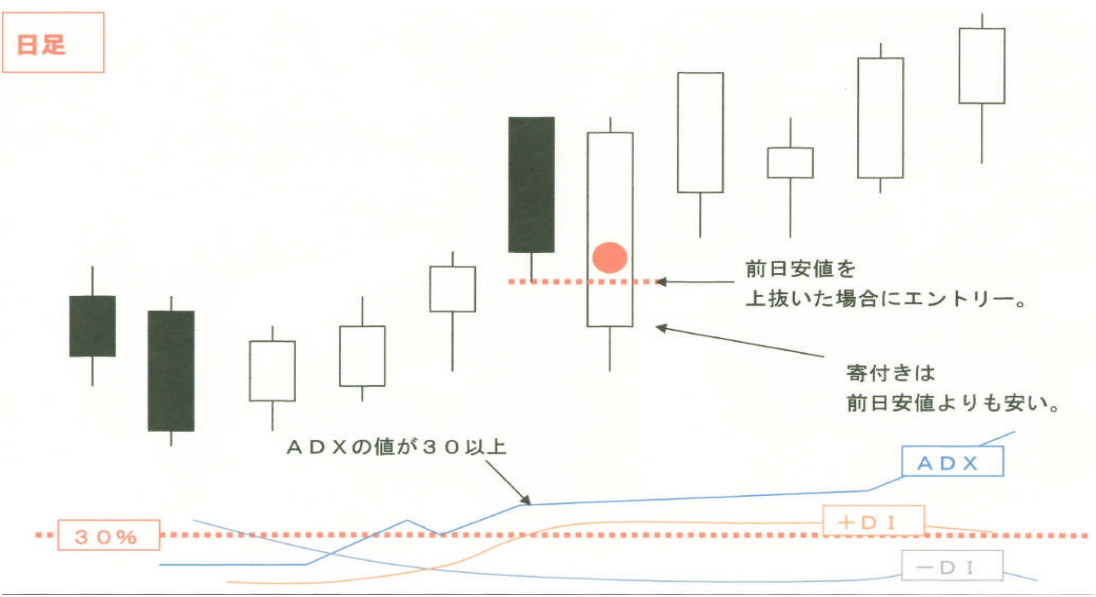
*ウップスはトレンドの方向に仕掛けるのが基本。上昇銘柄の場合は買い、下降銘柄の場合は売りで仕掛ける。



②ADX ギャッパー

アップスのトレンドルールにトレンドの強さを加味した投資手法が ADX ギャッパーです。このトレード手法を利用するには日足チャートで「ADX」「+DI」「-DI」の設定が必要。

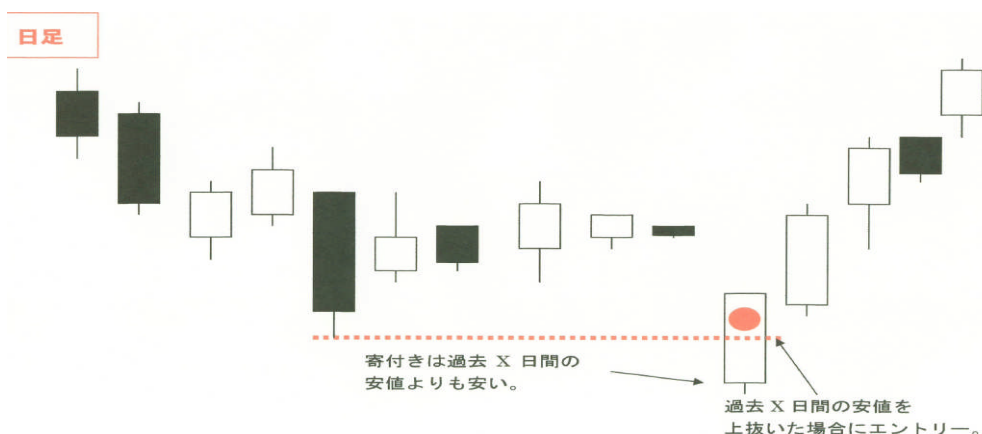
- ルール
- a 前日の大引けで日足チャートで計算した ADX（設定パラメータは12日）の値が30以上である。さらに+DI（28日）の値が-DI（28日）の値より大きい。
 - b 今日の寄付きが前日安値より安いことを確認する。（ギャップダウンの発生）
 - c 株価が上昇し、前日安値を上抜いた場合にエントリーする。
 - d ロスカットは今日の安値下。



③マルチギャップ

ウップスは前日の安値を基準としたギャップトレード。マルチギャップは任意の過去数日間の安値を基準としたギャップトレード。バーンスタインによると収益性と勝率を押し上げるのはマルチギャップの方だということです。

- ルール
- a 今日の寄り付きが過去 X 日（各自の任意）の安値より安いことを確認する（ギャップダウンの発生）
 - b 株価が上昇し、過去 X 日の安値を上抜いた場合にエントリーする。
 - c ロスカットは今日の安値した。



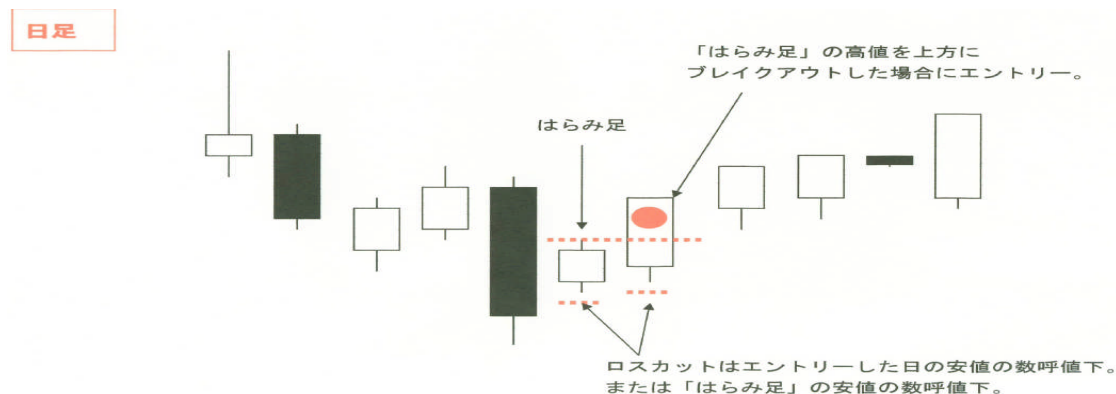
6. その他の手法

①はらみ足のブレイクアウト

相場収縮の後にしばしばトレンドが発生しやすいと言われている。日足での相場収縮日である「はらみ足」の高値や安値のブレイクもショートタームトレーダーにとっては注目すべきエントリーポイントの一つである。

- ルール
- a 日足で「はらみ足」を確認する
 - b 「はらみ足」の高値を上方にブレイクアウトした場合にエントリーする。
 - c ロスカットは「はらみ足」の安値下。

*米国と日本のはらみ足は若干異なる。米国は前日の高値と安値の中、日本はローソク足の実体の中に含まれている。



②スマッシュ・デイ

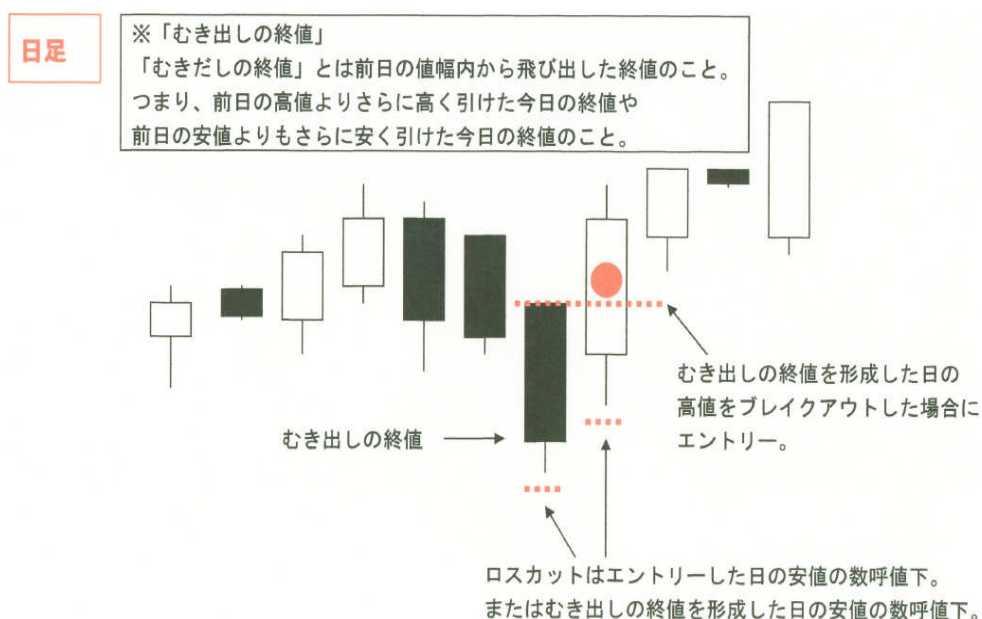
ラリー・ウィリアムズによる日計り～数日のトレード手法。前日の終値が前々日よりも安くなり日足でみると売り優勢に見えるローソク足の組み合わせを認識することからトレードの準備が始まる。一見売り優勢に見えた翌日に前日の高値を抜いて買い進まれるようだと前日まで売りで攻めてきたトレーダー達が損切りをせざるをえない状況になり、その買い戻しにより株価の上昇が促進されることがある。その上昇に乗る手法が「スマッシュデイ」です。

ルール a 日足で今日の終値は前日の安値より安く引ける（むきだしの終値）。
トレーダーによっては「過去数日間（3～8日）の安値」であることをルールにしている場合もある。

b 翌日今日の高値をブレイクアウトした場合にエントリーする。

c ロスカットはエントリーした日の安値下数呼値か前日の安値下数呼値

*スマッシュデイもトレンドの方向に仕掛けるのが基本です。



③スペシャリストのわな

保ち合いからのブレイクアウトに見えた株価の動きが、ブレイクアウトに失敗し、再び保ち合いの方向に戻る動きに乗る投資手法

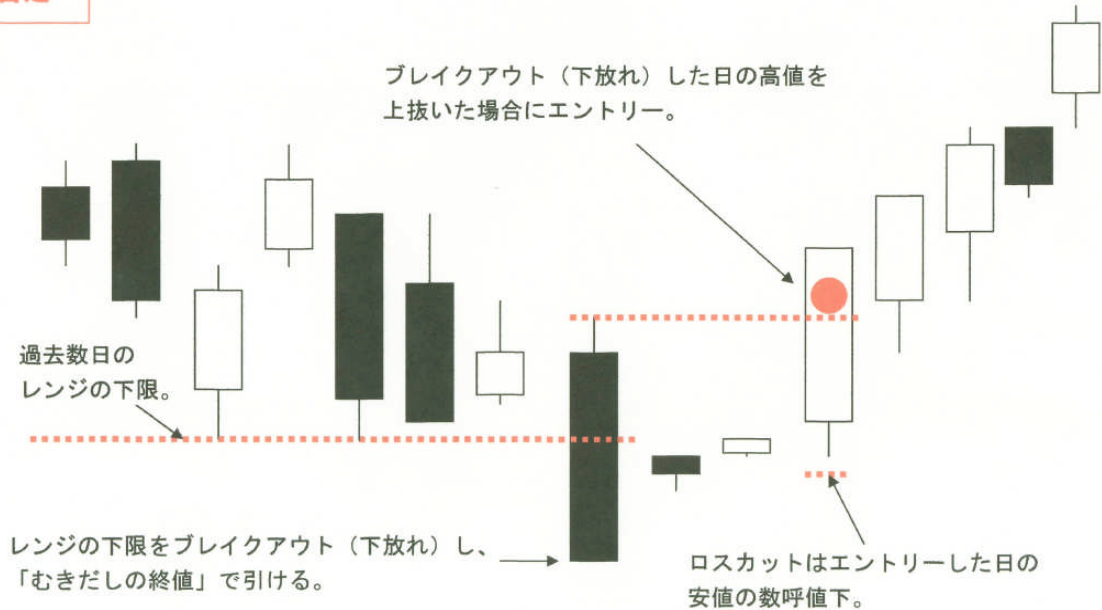
ルール a 5～10日間株価は保ち合いを形成する。

b その後、株価は保ち合いレンジを下限をブレイクアウトし、むきだしの終値で引ける。

c もし株価が数日のうちに保ち合いレンジをブレイクアウトした日の高値を抜いてきたらエントリーする。

d ロスカットはエントリーした日の安値の数呼値下。

日足

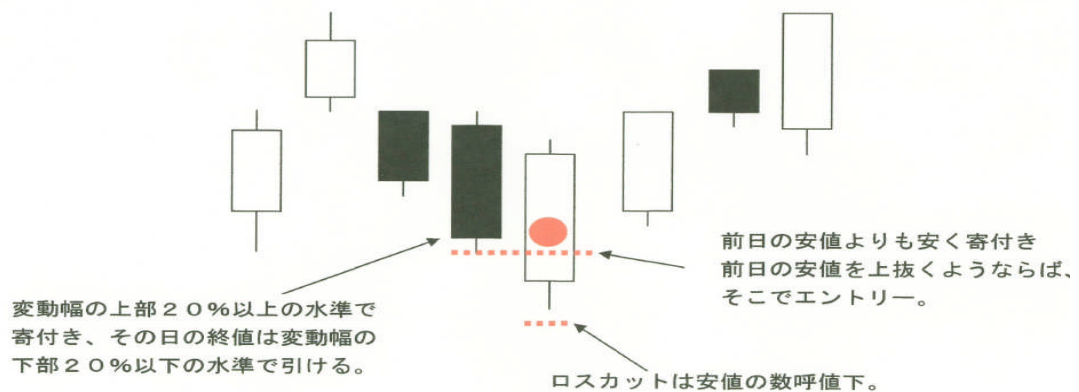


④ 80-20 'S

ある日株価が高い位置から低い位置に下落し、翌日はその流れを引き継ぎさらに下落しますが、ある地点から株価が反動始めることがあります。これは株価の反転現象の始まりです。もし下落していた株価が反転し前日の値幅内まで戻ってくる短期的な利益を手に入れるエントリーチャンスが巡ってきたこととなります。

- ルール
- a 前日、株価は変動幅の上部20%以上の水準で寄付き、その日の終値は変動幅の下部20%以下の水準で引ける。
 - b 翌日株価は前日の安値よりも安く寄り付く。
 - c もし、株価が値を戻し、前日の安値を上抜くならば、そこでエントリーする
 - d ロスカットは当日の安値下。

日足



⑤聖杯

リンダ・ブラットフォードとローレンス・A・コナーズによる紹介で日計り～数日のための手法としては有名。

強い上昇トレンドにある株価は大抵の場合、一旦その動きを中止し、押し目を作ります。その後再び株価は上昇を開始し始めますが、その再上昇の初期の動きに乗るための手法です。チャートソフトではADX（パラメータは14日）と指数移動平均線（パラメーターは20日）の設定が必要です。

- ルール
- a 株価が上昇トレンドにあり、ADX が30以上の値を示し上昇していることを確認する。
 - b 株価が指数移動平均線に向かって押し目を形成し始める。
 - c 株価が指数移動平均線に触れる。
 - d 翌日、株価が指数移動平均線に触れた日の高値を上抜くようならばエントリーする。
 - e ロスカットは間近の押し目の安値の下。

